

日本赤十字九州国際看護大学紀要規程

(目的)

第1条 この規程は、日本赤十字九州国際看護大学（以下「本学」という。）における教員等の研究成果を広く学内外に発信することを目的として、「日本赤十字九州国際看護大学紀要」（以下「紀要」とする）を刊行するにあたり、必要な事項を定める。

(編集)

第2条 紀要の編集は、図書館運営委員会委員長が委員より任命する図書館運営委員会 紀要編集担当（以下「紀要編集担当」という。）が行う。

(発行)

第3条 紀要の発行は、原則として年1回とし、本学学術情報リポジトリにて公開する。

(投稿資格)

第4条 紀要への投稿資格者は次のとおりとする。

- (1) 本学の専任教員、非常勤教員
- (2) 本学大学院生、大学卒業生、大学院卒業生
- (3) その他、紀要編集担当において承認した者

(掲載内容)

第5条 紀要に掲載する内容及び制限枚数は別表のとおりとする。

(原稿の提出)

第6条 原稿は、別紙様式①～④にてメールで提出する。

2 原則として、原稿は返却しない。

3 提出先

日本赤十字九州国際看護大学 図書館運営委員会 紀要編集担当 宛
メールアドレス：kiyou2@jrckicn.ac.jp

(倫理的配慮)

第7条 人および動物が対象である研究においては、「ヘルシンキ宣言」以降の研究倫理に関する宣言並びに「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「看護者の倫理綱領」および「看護研究における倫理指針」等の諸倫理指針の趣旨に沿って倫理的に配慮され、その旨が本文中に明記されるものとする。なお、倫理審査の承認機関及び承認番号を必ず記載する。

(執筆要領)

第8条 投稿は、執筆要領によるものとし別に定める。

(著者校正)

第9条 投稿者による校正は2校までとし、校正に際して大幅な追加、修正は原則として認めない。

(原稿の採否)

第10条 投稿原稿の採否は、複数の査読者の審議を経て紀要編集担当が決定する。

(査読)

第11条 紀要編集担当は、投稿原稿内容に応じて学内の教員または学外の適任者の中から査読者を選定し、依頼する。

- 2 依頼された査読者は、紀要編集担当から指定された日時までに依頼された原稿を査読し、その結果を紀要編集担当に報告しなければならない。

(著作権)

第12条 著作権は本学に帰属する。電子化についても、著者はその著作権が本学に帰属することを了承するものとする。

- 2 著者は、投稿時に「誓約書及び著作権譲渡同意書」を提出するものとする。

(雑則)

第13条 この規程の改正が必要な場合は、経営会議の議を経て、教授会及び研究科委員会に報告し、学長が行う。

附則

この規程は、平成26年6月12日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附則

この規程は、平成31年3月1日から施行する。

附則

この規程は、令和2年8月6日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

附則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附則

この規程は、令和4年6月23日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

【別表】

＜原稿の種類と掲載内容＞

原稿の種類と内容は下表のとおりであり、未公開のものに限る。また、著者は原稿にその種類（何れか一つ）を明記しなければならない。なお、投稿原稿は返却しない。

原稿の種類	内容	制限頁数
原著 Original Article	テーマが明瞭で独創性に富み、新しい知見や理解が倫理的に示されているもの。研究論文として形式が整い、研究としての意義が認められるもの。	12
総説 Review Article	とりあげた主題について、内外の諸研究を幅広く概観し、その主題についてのこれまでの動向、進歩を示し、今後の方向を展望したもの。	12
報告 Report	【調査報告】調査・実験などで得られたデータをまとめ、本学の教育、看護領域の発展に寄与するもの。 【事例報告】事例を用いた分析が本学の教育、看護領域の展開に寄与するもの。 【実践報告】教育および看護の臨床における実践方法に関するもの。	10
研究ノート Research Note	萌芽的研究、追試的研究、研究情報（文献レビューもこれに含める）など。	10
資料 Source/Information Supplemental Article	調査・実践などで得られたデータや資料で、利用価値がある（と期待される）もの。	10
論壇 Sounding Board Article	本学の教育、看護領域に関わる話題のうち、議論が交わされつつあるものについて今後の方向性を指し示すような見解や提言。	2
その他 Others	上記のカテゴリに分類することが難しいが、委員会が掲載を妥当と認めたもの	6

- ・学長指定研究、奨励研究報告書
- ・当該年の教員業績（著書、論文、学会発表、社会活動）
- ・当該年度の修士、博士論文の研究テーマ及び指導教員の一覧
- ・その他